

分科会の設置及び調査等の進捗状況について

- 資料 1－1 1944 東南海地震・1945 三河地震
- 資料 1－2 1847 善光寺地震
- 資料 1－3 1959 伊勢湾台風
- 資料 1－4 1923 関東大震災第 2 編

平成 18 年 12 月 18 日

「1944 東南海地震・1945 三河地震報告書」進捗状況について

分科会主査 安藤 雅孝

1 分科会の開催状況及び今後の予定

H18. 1.16	第 1 回開催（名古屋）	構成案検討
H18. 3. 6	第 2 回開催（名古屋）	構成、執筆分担等の検討
H18. 4～ 8	原稿執筆期間	
H18. 9.29	第 3 回開催（名古屋）	担当原稿の検討
H18.10.27	第 4 回開催（名古屋）	報告書案の検討＜最終回＞
H19. 2＜予定＞	報告書案完成、小委員会で審査を予定	
H19. 3＜予定＞	専門調査会で報告案の審査を予定	
	専門調査会審議結果を反映の上、校正開始予定	
H19. 3＜予定＞	報告書（200 部）完成を予定	

2 分科会委員

○安藤 雅孝	名古屋大学環境学研究科教授
※伊藤 和明	防災情報機構特定非営利活動法人会長
*北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
小澤 邦雄	静岡県地震防災センター所長
木村 玲欧	名古屋大学環境学研究科助手
斎藤 弘之	安城市歴史博物館学芸員
鈴木 康弘	名古屋大学環境学研究科教授
羽賀 祥二	名古屋大学文学研究科教授
林 能成	名古屋大学環境学研究科助手
吉村 利男	三重県生活部文化振興室県史編さんグループ
(○：分科会主査、※：専門調査会座長、*：専門調査会小委員会座長)	

事務局

＜内閣府＞

荒木潤一郎	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
岩間 功	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付
金子 雅也	政策統括官(防災担当)付総括担当参事官付
越智 敏文	政策統括官(防災担当)付地震・火山対策担当参事官付
及川 雅仁	政策統括官(防災担当)付総括担当参事官付（H18.3 まで）
高橋隆一郎	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付（H18.3 まで）

＜(財)日本システム開発研究所＞

山田美由紀	研究部第二研究ユニット
岩崎 尚子	研究部第二研究ユニット

3 報告書の構成(案)

はじめに	(安藤)
第1章 東南海地震の災害の概要	
第1節 東南海地震.....	(安藤)
第2節 東南海地震による災害.....	(林)
第2章 東南海地震の被害と救済	
第1節 三重県の被害・救済.....	(吉村)
第2節 愛知県の被害・救済.....	(羽賀、齋藤)
第3節 静岡県被害・救済.....	(小澤)
第4節 諏訪の被害.....	(伊藤)
第3章 東南海地震のインパクト	
第1節 津波の被害.....	(木村)
第2節 その後の対応.....	(羽賀)
第3節 想定東海地震との関係.....	(安藤)
第4章 三河地震の災害の概要	
第1節 三河地震.....	(鈴木)
第2節 三河地震による災害.....	(林)
第5章 三河地震の被害と救済	
第1節 三河地域の被害・救済.....	(齋藤、林)
第2節 写真や絵から見た三河地震.....	(林)
第6章 戦時下での地震	
第1節 報道管制の概要.....	(木村)
第2節 報道内容.....	(吉村ほか)
第3節 戦時下での地震についての調査.....	(林)
第4節 太平洋戦争と東南海地震・三河地震.....	(伊藤)
おわりに	(未定)

4 その他報告事項 特になし

平成 18 年 12 月 18 日

「1847 善光寺地震報告書」進捗状況について

分科会主査 北原 糸子

1 分科会の開催状況及び今後の予定

H18. 2.21	第 1 回開催（内閣府）	構成案検討
H18. 4. 7～ 8	第 2 回開催（長野等）	現地調査及び目次・執筆分担の検討
H18. 4～ 8	原稿執筆期間	
H18. 9. 8	第 3 回開催（長 野）	担当原稿の検討
H18.12. 1	第 4 回開催（長 野）	報告書案の検討＜最終回＞
H19. 2＜予定＞	報告書案完成、小委員会で審査を予定	
H19. 3＜予定＞	専門調査会で報告案の審査を予定	
	専門調査会審議結果を反映の上、校正開始予定	
H19. 3＜予定＞	報告書（200 部）完成を予定	

2 分科会委員

⊙北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
赤羽 貞幸	信州大学教育学部長
※伊藤 和明	防災情報機構特定非営利活動法人会長
鬼頭 康之	長野市総務部庶務課公文書館準備担当
原田 和彦	長野市総務部松代支所松代文化施設等管理事務所係長
降幡 浩樹	長野市立博物館学芸員
井上 公夫	財団法人砂防フロンティア整備推進機構参与・技師長
松浦 律子	財団法人 地震調査研究センター主任研究員
(○：分科会主査、※：専門委員会座長、*：専門調査会小委員会座長)	

事務局

<内閣府>

荒木潤一郎	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
藤田 亮	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付
三上晴由貴	政策統括官(防災担当)付災害応急対策担当参事官付
山腰 裕一	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付 (H18.3 まで)
松田 淳吾	政策統括官(防災担当)付地震・火山対策担当参事官付 (H18.3 まで)

<(財)日本システム開発研究所>

上田 和孝	研究部第二研究ユニット
山田美由紀	研究部第二研究ユニット

3 報告書の構成

巻 頭 言	伊藤委員
・この災害を取り上げることの現代的意義について記述	
第1章 災害の概要	
・この災害を引き起こした地面の下の問題を中心として解説、分析について記述	
・地震学的、地質学的な分析について記述	
第1節 弘化善光寺地震の地震学的特徴 (1847 年5月8日 [弘化4年3月24日])	
.....	松浦委員
1. はじめに	
2. 盆地縁辺部に発生する逆断層の地震	
3. 歪集中帯の中に位置する長野盆地	
4. 松代群発地震	
5. 善光寺地震による震度分布と推定されるその震源域と規模	
6. 誘発された5日後の地震	
7. 今後の地震活動の予測	
・善光寺周辺の広域的な揺れの分布について記述	
・善光寺地震の活断層について記述	
・周辺活断層の活動状況などについて記述（関連又は連鎖した地震）	
・地震学的にどのような地震であったかを記述	
第2節 地震災害の状況	赤羽委員
1. 被害の概要	
（1）人的被害	
（2）家屋等の倒壊	
（3）土砂災害	
（4）堰き止めと決壊による水害	
（5）火災	
2. 災害記録と被害の状況	
（1）古文書（文字）による記録	
a. 代表的な古文書史料	
b. 古文書における被害の表記	
（2）絵図・絵による記録	
a. 「信州地震大絵図」	
b. 「感応公丁未震災後封内御巡視之図」	
c. 「善光寺地震池田組絵図」	
d. 善光寺地震のかわら版	
e. 「信濃国大地震之図」	
（3）被害の痕跡	
a. 大規模崩壊地	
b. 地震断層による変位地形	
c. 善光寺に残された災害の痕跡	
3. 地震後の地盤の変化	
（1）西側山地の隆起による犀川取水口の移動	
（2）地すべりの活動を誘発した地震	
（3）安定した地盤となった崩壊堆積物の埋積地	
（4）地震後の土砂災害	
4. 善光寺地震災害の特徴	
・善光寺地震の断層等の位置について記述	
・善光寺地震の地学的にみた災害の特徴について記述	
・地震によりどのような被害がおこったのか、被害分布図等を利用して記述	
<コラム> 善光寺の釣鐘	鬼頭委員

第3節 土砂災害	井上委員、赤羽委員 (赤羽委員案)
1. 土砂災害の概要	
(1) 崩壊と地すべり	
(2) 堰き止めと決壊による土石流と洪水	
(3) 地震断層と地割れ	
(4) 液状化と噴砂	
2. 西部山地における土砂災害の原因	
	(井上委員案)
1. 「信州地震大絵図」(松代藩, 真田宝物館蔵)	
2. 「青木雪卿の絵図」(松代藩, 真田宝物館蔵)	
(1) 虫倉山周辺—青木絵図—33,37,38,39,40	
(2) 陣場平山周辺—青木絵図—29,32	
3. 「善光寺地震池田組大絵図」(原田恵美子蔵)	
4. 「松代封内測量図」(京都大学総合博物館蔵)	
・土砂災害の実際について全般的に記述	
第4節 天然ダム(仮)の形成と決壊	井上委員
1. 岩倉山の地すべりと天然ダム(仮)	
2. 他の地域の天然ダム災害	
3. 新潟県中越地震による土砂災害との比較	
・犀川湛水と千曲川への決壊について記述	
・山地災害、雪国(豪雪地帯)の特徴について、新潟県中越地震に言及しつつ記述	
<コラム> 渡辺敏と善光寺地震	西沢委員
第2章 被害と救済、そして復興へ	
注) 先ずは、各節においてそれぞれ被害から復興までを記述。	
第1節 善光寺領	鬼頭委員
1. 善光寺の歴史と近世善光寺領の成立	
2. 善光寺領と松代藩	
3. 善光寺町と町続き地の発達	
4. 出開帳と居開帳	
5. 善光寺信仰のひろがり	
6. 善光寺地震の全容	
7. 善光寺と善光町の被害	
8. 善光寺町続き地の被害	
9. 救済と鎮魂と復興	
・善光寺領の説明を記述	
・ご開帳の説明を記述	
・観光地としての善光寺を記述	
・善光寺町と善光寺そのものの被害、救済、復興状況を記述	
・善光寺領、藩、幕府の関係について記述	
第2節 幕府領と諸私領	鬼頭委員、降幡委員
1. 中野代官所管轄下の幕府領	
2. 高井郡中野扇状地の被害	
3. 牟礼・柏原・野尻宿の被害	
4. 長沼地区の被害	
5. 伺去真光寺村の土砂崩れ	
6. 豊野地区の被害	
7. 吉村の土石流	
8. 芋井地区の土砂崩れ	
9. 須坂領の地震被害	
・信濃新町、中条、小川に関する同状況を記述(災害に特徴がある場合)	

・大岡村等中山間地の特徴を記述	
・中山間地の被害、救済、復興状況を記述	
・幕府領の被害と救済、土砂に埋まった村々＝吉村や浅川などにも触れる	
<コラム>「松代封内測量図」の成り立ちと特徴	降旗委員
第3節 松代藩	原田委員
1. 善光寺地震と松代藩の対応	
2. 松代藩の復興策への努力と実情	
3. 個人の日記からみる復興への努力と民意	
4. 国役普請について	
5. 災害後について	
・善光寺地震と藩の対応（藩主幸貫の改革政治と救済策を中心に）	
・松代藩の復興策への努力と実情	
・個人の日記からみる復興への努力と民意	
・国役普請について記述	
<コラム>松代藩で作成された地震絵図類について	原田委員
<コラム>地震検針器発明（佐久間象山）	東氏
※地震後の科学的な取り組みと関連させて記述	
第4節 松本藩	降幡委員
・藩の状況を記述（時代背景、幕府との関係等）	
・松本藩の被害、救済、復興状況を記述	
・池田町の被害、救済、復興状況を記述	
・土砂災害について記述（第1章との関連を検討）	
・絵図について記述（国役普請も含める）	
第5節 上田藩	北原委員
・稲荷山の延焼について記述	
・上田藩の宿場町を中心に被害、救済、復興状況を記述（貧困藩に言及）	
<コラム>飯山城下、飯山藩（火災について）	長瀬氏
はじめに	
1. 飯山城下の物的被害	
2. 飯山城下の人的被害	
3. 在方の被害	
4. 犀川決壊による被害	
5. 救済と復旧	
6. 追善供養と石像物	
おわりに	
第3章 災害情報	
第1節 かわら版	降幡委員
・善光寺地震を伝えるかわら版類、冊子類の紹介（鯨絵にも触れる）	
・広い範囲で存在するかわら版と情報伝達（ルート）について記述	
・別所温泉の北向き観音堂の絵馬に関する逸話について記述	
<コラム>牟礼宿周辺の被害と富くじによる復興	小山氏
※別所温泉の北向き観音堂の絵馬に関する逸話について、本文中に記述するか、コラムとして記述するかも含めて検討	
* 個人の日記の日記については、それぞれの担当箇所に取り上げ、節を設けない（原田委員、降幡委員）	
第4章 教訓を将来へ	北原委員
第5章 まとめ	内閣府事務局
・各委員からの意見をもとに記述	

4 その他報告事項

- ・以下の絵図については、災害の全体像を把握するために地名等が判別可能な解像度の高いものが必要なため、報告書にて印刷するほか電子ファイルをCD-ROMに添付して付録とすることを検討する。
 - 『信州地震大絵図』（真田宝物館所蔵）
 - 『善光寺地震池田組大絵図』（池田町原田恵美子氏所蔵）

平成 18 年 12 月 18 日

「1959 伊勢湾台風報告書」進捗状況について

分科会主査 安田 孝志

1 分科会の開催状況及び今後の予定

H18. 9.11	第 1 回開催（名古屋）	構成案検討
H18.11. 8	第 2 回開催（名古屋）	目次・執筆分担の検討
H18.11～H19.2	原稿執筆期間	
H19. 2.28<予定>	第 3 回開催（名古屋）	担当原稿の検討
H19. 3<予定>	第 4 回開催（未 定）	報告書案の検討<最終回>
H19.11<予定>	報告書案完成、小委員会で審査を予定	
H19.12<予定>	専門調査会で報告案の審査を予定	
	専門調査会審議結果を反映の上、校正開始予定	
H20. 1<予定>	報告書（200 部）完成を予定	

2 分科会委員

○安田 孝志	岐阜大学副学長
*北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
市澤 成介	株式会社ハレックス気象担当部長
伊藤 安男	花園大学名誉教授
小田 貞夫	十文字学園女子大学教授
篠田 孝	(財)建設業技術者センター
長尾 正志	名古屋工業大学名誉教授
(○：分科会主査、※：専門委員会座長、*：専門調査会小委員会座長)	

事務局

<内閣府>

荒木潤一郎	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
山腰 裕一	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付
岡本 憲司	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付

<(財)日本システム開発研究所>

上田 和孝	研究部第二研究ユニット
山田美由紀	研究部第二研究ユニット

3 報告書の構成

第1章 伊勢湾台風災害の概説【2】	 安田
第2章 被災の状況【20】	 安田
第1節 人的被害	
第2節 物的被害	
1. 海岸・河川堤防の被災状況	
2. 堤防の破堤位置・延長と人的被害の関係，浸水高および浸水面積率の関係	
3. 家屋の流失率を指標として，地盤高や浸水高などとの関係を明らかにする.	
4. 浸水域と外力（高潮，内水，外水）の関係	
5. 外力と浸水原因（破堤，堤防高不足，排水能力不足）の関係	
6. 被害対象の拡大	
(1)建物	
(2)鉄道・道路	
(3)工場	
(4)港湾	
(5)水道・電気・ガス・通信	
(6)その他（土砂災害，田畑，木材流出）	
第3節 人的被害と家屋の被害との関係	
第3章 災害の特性【80】	
第1節 誘因としての特性	
1. 気象 台風とそれによる風、降雨	 市澤
(1)台風の概要	
(2)台風の上陸前後の詳細	
(3)台風に伴う暴風	
(4)台風に伴う雨	
2. 海象	 安田
(1)潮位計および痕跡データによる湾内最高潮位分布	
(2)日本における最高潮位，潮位偏差共に明治以降最高	
(3)潮位の極値統計的検討	
(4)最新の大気・海洋結合モデルを用いた伊勢湾台風とそれによる高潮・波浪の再現	
3. 洪水状況、河川水位、被害状況	 長尾
(1)降雨概況	
(2)洪水状況と被害	
a. 中部地方の出水と被害状況	
b. 木曾三川の出水と被害状況	
(a). 木曾川	
(b). 長良川	
(c). 揖斐川	
c. 名古屋市内河川の出水と被害状況	
(3)山地崩壊・堆積土砂とこれらによる被害	
第2節 素因としての特性	
1. 伊勢湾の地理的特性	 安田
2. 伊勢湾周辺地域の地理的特性	 伊藤(安)
(1)木曾三川流域の地形発達史	
(2)縄文海進以降の河道変遷	
(3)水防共同体としての輪中形成	
(4)新田開発と干拓型輪中の発達	
(5)多芸輪中の築立と複合化	

- 3. 堤防等の防災施設 篠田
 - (1) 海岸堤防（高さ、構造等）
 - a. 昭和 28 年台風 13 号による被災前の海岸堤防
 - b. 伊勢湾台風来襲時の海岸堤防
 - (2) 干拓堤防
 - 鍋田干拓堤防の状況
 - (3) 河川堤防
 - a. 木曽三川河口部の堤防
 - b. 名古屋市内の河川
 - (4) 港湾施設
 - a. 名古屋港の防波堤及び護岸
 - b. その他
- 4. 土地利用状況 伊藤(安)
 - (1) 水稲単作地帯
 - (2) 低湿地特有の高畔耕作
 - (3) 輪中干拓土地改良による土地利用の変容
 - (4) 長島温泉開発に伴う都市化
- 5. 建物の構造的被害—名古屋市中での被害調査を通じて—
 - (1) 構造的特徴と建築物被害 長尾
 - a. 木造建築物
 - b. 鉄筋コンクリート造建築物
 - c. コンクリートブロック造建築物
 - d. 鉄筋建築物
 - (2) 特殊施設の被害
 - a. 公共建築物
 - b. 住宅団地
 - c. 工場・社宅
- 6. 都市構造 篠田
 - 名古屋市南部の住宅事情
 - a. 市街化の経緯
 - b. 市営住宅の分布と構造

第 3 節 拡大要因としての特性

- 1. 流木 篠田
 - (1) 貯木場の概要
 - a. 成立
 - b. 分布と規模
- 2. 控堤 伊藤(安)
 - (1) 輪中堤の築立とその消失過程
 - (2) 輪中堤取壊・削下りの経緯
 - (3) 輪中堤消失と輪中水防意識の変化
 - (4) 水害時の洪水波と控堤としての輪中堤の機能
- 3. 人為的要因 小田
 - (1) 台風の勢力や進路予測・危険予測・防災への行動指示などの情報伝達と受容の不全
 - (2) 住民の危険性認識の希薄さ
 - (3) 行政・防災機関の対応の不備

第 4 節 行政・報道・企業・住民の被災前後の対応

- 1. 気象庁(気象台)の対応 市澤
- 1. 名古屋地方気象台 篠田
- 2. 国鉄
- 3. 報道機関
- 4. 工場（貯木場を含む）

5.	住民	
6.	自衛隊	
○.	報道の対応	・・・・・・・・・・小田
(1)	「台風情報は電波には乗った」	
a.	両局の準備	
b.	9月26日の放送	
c.	被害状況の報道	
(2)	「台風情報は伝わらなかった」	
a.	放送を出す	
b.	大規模停電とラジオ	
(3)	「放送は復旧に貢献した」	
a.	生活情報の放送送	
b.	テレビ番組の効用	
第5節	警報・避難情報と災害経験の減災効果	
1.	災害情報	・・・・・・・・・・市澤
2.	避難効果	・・・・・・・・・・安田
3.	被災経験の減災効果	・・・・・・・・・・長尾、安田
第4章	国・自治体、報道、企業、住民の被災後の救済から復旧過程での対応と「災害対策基本法」の制定【40】	
第1節	被災住民の救済	・・・・・・・・・・篠田
1.	収容避難	
第2節	復旧・復興	
1.	災害復旧	
	・中部日本災害対策本部の設置	
	・伊勢湾等高潮対策協議会の設置（11月16日）	
	・第33回臨時国会（10月26日召集）	
	・海岸法の一部改正（昭和35年3月）	
第3節	報道の対応	・・・・・・・・・・小田
第4節	災害対策基本法の制定	・・・・・・・・・・篠田
1.	それまでの災害対策の問題点	
第5章	国民生活への影響	
第1節	被災地域	・・・・・・・・・・伊藤(安)
1.	災害後の災害意識	
2.	災害後の防災意識	
3.	前後の水防組織の変容	
第2節	東海三県への影響	・・・・・・・・・・長尾
1.	愛知、三重、岐阜への影響	
(1)	愛知県	
(2)	三重県	
(3)	岐阜県	
2.	名古屋市臨海部防災区域条例の設定と施行	
(1)	条例成立の背景	
(2)	制定・施行	
(3)	その後の改訂の状況	
第6章	伊勢湾台風災害の総括と継承すべき教訓【20】	・・・・・・・・・・全員

平成 18 年 12 月 18 日

「1923 関東大地震―第 2 編―」報告書進捗状況について

分科会主査 鈴木 淳

H18.12.05	第 1 回開催（内閣府）	構成及び執筆分担の検討
H19. 2<予定>	第 2 回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H19. 2～ 8	執筆期間	
H19. 9<予定>	第 3 回開催（内閣府）	執筆原稿案の検討
H19.10<予定>	第 4 回開催（内閣府）	報告書案の検討
H19.11<予定>	第 5 回開催（内閣府）	報告書案の検討<最終回>
H19 年度中	報告書素案完成、小委員会で審査を予定	
(3 月目途)	専門調査会で報告案の審査を予定	
	専門調査会審議結果を反映の上、校正開始予定	
	報告書（200 部）完成予定	

2 分科会委員

○鈴木 淳	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
岡田 直	横浜都市発展記念館
佐藤 健二	東京大学大学院人文社会系研究科教授
関沢 愛	東京大学大学院工学系研究科教授
土田 宏成	神田外語大学講師
*北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
西田 幸夫	東京理科大学総合研究所 COE 技術者
加藤 智康	國學院大学大学院文学研究科
嶋 理人	東京大学大学院人文社会系研究科
中澤 俊輔	東京大学大学院法学政治学研究科
吉田 律人	國學院大学大学院文学研究科
(○：分科会主査、*：専門調査会小委員会座長)	

事務局

<内閣府>

荒木潤一郎	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
山腰 裕一	政策統括官(防災担当)付災害予防担当付主査
西岡 俊彦	政策統括官(防災担当)付災害予防担当付

<(財)日本システム開発研究所>

上田 和孝	研究部第二研究ユニット
山田美由紀	研究部第二研究ユニット

3 報告書の構成 第2編「救援と救済」

はじめに

第1章 消防と医療

第1節 避難と消防（関沢愛・西田幸夫）

避難状況と消防活動の概況。結果的な延焼阻止への貢献にとどまらず、内部焼け止まりなど延焼動態と消防活動との関係、それが避難に及ぼした影響など、延焼自体を阻止できないなかでの消防の役割と教訓を引き出せないか。震災を踏まえた消防体制の復興は時期的には第3編であるが、ここで一括するか。

第2節 医療救護（北原糸子）

発生した傷病の種類と時期による変化。当時の治療方策、病院の活動、日本赤十字社の救護班来援。

第2章 国の対応

第1節 内閣の対応（土田宏成）

救護事務の統制。2日、臨時震災救護事務局、戒厳令・非常徴発令。組閣途上という特殊要因の自覚的織り込み。7日の暴利取締令・支払猶予令は制定経緯のみで、影響は第3編か。12日詔書、16日内閣告諭、19日帝都復興審議会官制あたりで終期を設定。

第2節 軍隊の活動（吉田律人）

軍による警備、救護活動。当時までの先例、慣行に言及。地方部隊の来援（高田の事例）。海軍。在郷軍人会の活動。船橋送信所問題（流言蜚語にするか）

第3節 警察の対応（中澤俊輔）

内務省警保局以下。警視庁の活動と地方警察からの来援。被災地以外での警備。治安、衛生での幅広い活動と限界。不評の背景。警察の勧奨による自警団。

第3章 地域の対応

第1節 東京府・市の対応（加藤智康）

避難者の収容、食料等の供給と配給体制作り、清掃や応急復旧。町内会、青年団等（市内所在のものと来援して府・市の指揮下にはいったもの）の活動。住民の活動に委ねる部分の大きさ、自発性と統制の両面。

第2節 横浜での対応（岡田直）

横浜を中心に神奈川県、市の対応。民間、周辺地域（現市域内）も適宜含める。

第3節 千葉での対応（土田宏成）

都市災害の周縁部と僻地災害。県のほか郡、町村、民間、東京への赴援も。

第4章 復旧と混乱

第1節 鉄道と電力の復旧（嶋理人）

当面の復旧作業とその担い手。海運を含む避難者の交通手段。市内交通の当面の復旧。電灯の復旧。避難者救護の拠点としての駅（亀戸、高崎？）

第2節 流言蜚語（佐藤健二）

広範な流言の広がりとその要因の検討。被災地域内と外部。住民組織。時代性と普遍性。マスコミの役割。

第3節 虐殺問題（鈴木淳）

1. 虐殺事件の概要

- (1) 朝鮮人関係
- (2) 中国人関係
- (3) 亀戸事件、大杉栄

2. 発掘・検証運動

- (1) 震災直後の動きと限界
- (2) 昭和戦後期における進展
- (3) 近年の動向

おわりに（まとめと教訓）

主に公刊の報告書を用いて全貌を概観する。施策の背景・効果に関してもなるべく史料を集めて補う。代表的、あるいは特に教訓が引き出せられると思われる局面で、回想記や他の参照可能な史料がある部分をとらえて具体的に詳述する。

想定外の災害なので全力を尽くしたにせよ、最善の対応にはなっていない。当時の人を責めるのではなく、批判的な教訓は得られるはず。成功事例・美談は慎重に検討。